ねりまの文化財

第53回　文化財防火デー
～文化財を火災から守り、次代に残すために～

1月26日は、消防庁と文化庁が主唱する文化財防火デーです。

昭和24年1月26日、世界最古の木造建造物である法隆寺金堂が炎上し、世界の至宝ともいわれた白鳳時代の壁画が焼損してしまいました。この事件を契機に、昭和25年には文化財保護法が施行され、昭和30年には文化財を災害から保護するとともに、文化財愛護思想の普及高揚を目的として、防火デーは制定されました。以来、この日を中心に全国的な文化財防火運動が展開されています。

昨年、大松の氷川さまと親しまれてきた北町の氷川神社が罹災したのは記憶に新しいところです。11月13日、本殿や拝殿、社務所などが全焼し、指定文化財の富士塚は無事だったものの、登録無形民俗文化財の北町囃子で使用していた太鼓が焼失してしまいました。

わが国の文化財の多くは木や紙の可燃物であり、その火災原因は放火や焚き火等からの飛び火が多いという傾向があります。つまり、常に火災の危険に晒されているといえます。このような、火災に対して極めて脆弱な文化財を守るためには、消防設備等の維持管理はもちろん、地域の方々のご協力が不可欠になってきます。家の周りの燃えやすい物は取り除き、整頓を心掛ける等、普段からの心構えが重要です。そして、万が一の火災の際でも、初期消火に協力していただくことによって被害を最小限に抑えることが可能となるのです。

今回、関連行事として消防訓練が行われますが、国民共有の財産である文化財を守るという意識を高めるために、毎年行われています。通報、初期消火から始まり、重装備隊員による救出・救護、文化財の搬出がホース連結と同時進行で行なわれ、一斉放水へと続きます。緊迫した空気が漂うなか、本番さながらの演習です。是非、お越しください。

○日時・場所

1月25日（木）午前10時から
妙福寺（南大泉5-6-56）

1月26日（金）午前10時から
南蔵院（中村1-15-1）
長命寺（高野台3-10-3）

○問合せ先

練馬区教育委員会文化財係

練馬区教育委員会
生涯学習課
（文化財係）
℡ 3993-1111
〒176-8501
練馬区豊玉北6-12-1

昨年の訓練（土支田八幡宮）

◇文化財講座◇

練馬区の変遷
―独立60年の移り変わり―

練馬区が板橋区から独立して今年で60年になります。農村地帯であった練馬区は、都心のベッドタウンとして変貌を遂げました。西武池袋線の有楽町線乗り入れや大江戸線の開通などによる交通網の整備によって開発に拍車がかかり、練馬区の風景が大きく変わってきています。

今回、練馬区文化財保護審議会会長の松下正巳先生から、練馬区誕生からのまちの変化についてお話をいただきます。ふるってご参加ください。

日時・3月16日（金）18時から
場所・区役所アトリウム地階
多目的会議室

詳しくは、2月21日号の区報をご覧ください。

別荘橋（昭和31年）
『練馬区独立50年の移り変わり』より

地名のはなし

―今年は練馬区独立60周年―

昭和22年8月1日に練馬区が誕生してから今年は60年になります。江戸・東京の近郊農村であった区域は鉄道の開通や震災、戦災を経て、70万人が暮らす都市へと移り変わりました。かつての「ねりま」の姿を伝え、現在の町名へと続く地名の由来などを紹介します。

◇江戸近郊の村から　練馬区独立まで

江戸時代の練馬区域は幕府直轄地が多く、幕府代官による支配地域が大半を占めていました。江古田新田、上板橋村、上練馬村、下練馬村、中新井村、中村、田柄村、土支田村、谷原村、上石神井村、下石神井村、関村、竹下新田、小榑村、橋戸村の全部又は一部が現在の区域にあたります。

明治6年には大区小区制による行政範囲の変更などを経て、明治22年の市町村制施行により、村々の整理分合が行われました。下土支田村は上練馬村に編入、谷原村・田中村・上石神井村・下石神井村・関村・竹下新田・上土支田村は石神井村となりました。中村は中新井村となり、下練馬村は単独で下練馬村となりました。また、小榑村、橋戸村は合併して榑橋村となり、明治24年には周辺の一部と合わせて大泉村となりました。

昭和7年、東京市は35区制となり、練馬の地域は板橋区に編入されました。旧上・下練馬村の地域は「板橋区練馬……町」、石神井村の地域は「板橋区石神井……町」という町名となります。

昭和22年3月、区域の整理統合が行われ、35区から22区になりました。そして同年8月に23番目の区として、練馬区が誕生しました。

昭和38年2月から平成2年1月まで住居表示事業が行われ、現在の町名が確定しています。

◇地名由来あれこれ

現在の町名は、昔からの地名を受け継ぐものから新しく付されたものまでさまざまです。

・江戸時代の村名から
練馬、中村、土支田、谷原、南田中（田中村）、石神井、関

・江戸時代の村の小名から
小竹、羽沢（羽根沢）、向山、貫井、高松、田柄、立野町

・寺社の名称から
春日町、氷川台、高野台（長命寺の山号）

・地域の小学校から
旭丘、豊玉、旭町

・駅名から
桜台、富士見台

・ふたつの地名をあわせた
早宮（江戸時代の小名「早淵」と「宮ケ谷戸」から一文字ずつとった）
大泉（最初は小井戸川〔白子川〕と井頭池（泉）を合わせて「小泉・おいずみ」だったが、「こいずみ」とも読めてしまうので）

・その他
栄町（繁栄を願う。境を美しく言い換えた）
錦（江戸時代に徳川綱吉の御殿があったとされ「御殿」の地名がありそれを引継ぐきらびやかな地名として）
北町（旧下練馬村の北だったことから）
光が丘（緑と太陽のまち練馬を象徴して）
三原台（三方が台地になっているから）
大泉学園町（大学を誘致し学園都市を目指したため）

石造物を移設しました

豊島園の東に隣接する道路の傍ら（練馬4-18）に馬頭観音が1基建っていました。しかしながら開発のため、春日町青少年館（春日町4-16）へ移設しました。練馬区には多くの石造物がありますが、その中でも馬頭観音は50基余と、庚申塔についで多くみられます。

馬頭観音は、頭上に馬頭をいただく忿怒（ふんぬ）相の観音菩薩です。馬頭をもつところから馬の守護仏として信仰されるようになりました。造立場所は、屋敷内の厩付近、馬捨て場や村境、峠や山道など交通の難所などが選ばれています。

春日町青少年館周辺には、鹿島安太郎顕彰碑、練馬大根碑、弘法大師霊場碑、庚申塔などがございます。お近くへお立ち寄りのときは探してみてください。

高松二丁目遺跡の発掘調査

平成18年2月、高松二丁目9番において特別養護老人ホーム建設が計画されたことに起因して、遺跡の有無確認のための試掘調査を実施しました。敷地における建物計画のうち、南側について、旧石器時代の石器製作址と焼礫からなる礫群が発見されました。これによって、同年4月に、遺跡が工事により消滅する415㎡について発掘調査を実施しました。

高松二丁目遺跡は、この発掘調査によってつけられた遺跡名で、従来は№73遺跡として周知されていた遺跡です。旧石器時代とは、土器が使われる以前の、一万二千年以上前の時代です。平成12年に発覚した、前期旧石器時代の石器捏造問題になった時期のものは、50万年とかなり古いもので、形質人類学的には「原人」と言われる時期です。日本ではこの問題以後、前期旧石器時代の遺跡は、白紙となってしまいました。都内では、立川ロームX層から、各地で遺跡が見つかっているため二万四千年前よりは古い遺跡があることは確実です。区内でも早宮一丁目18番他に所在する東早淵遺跡、春日町五丁目11番他の尾崎遺跡、大泉三丁目24番のもみじ山遺跡（外かん道路関連遺跡）でも旧石器時代の石斧が出土しています。世界史的には後期旧石器時代にあたります。さきの二万四千年という年代は、立川ロームVI層に含まれている火山灰、姶良（あいら）・丹沢パミス（A・T）の年代測定によります。姶良・丹沢パミスとは、鹿児島県の姶良山が噴火した時に、降下してきた火山灰で、九州を中心として遠く宮城県まで確認されており、年代の指標となっています。旧石器時代では、獲物を追い求めて移動していたため、住居址はほとんどつくられず、石器を製作した跡の石器ブロックや石を焼いて調理をしたと考えられる礫群が主たる生活痕跡、遺構となっています。

1号礫群　Ⅲ層

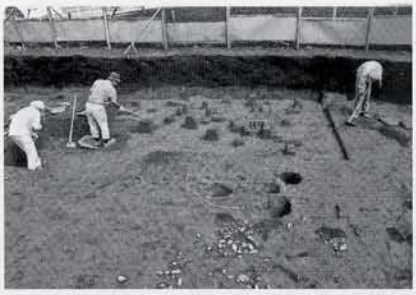
高松二丁目遺跡では、立川ロームⅢ層から9基の礫群と石器ブロック6箇所、Ⅳ層上部から礫群1基と石器ブロック1箇所が発見されました。石器の中には、黒曜石製やチャートのナイフ形石器、スクレーパー、ハンマーなどの道具や石器製作の素材であるコアや剥片などが出土しています。ナイフ形石器というのは、ナイフの形をしている石器のことで、一方に鋭利な部分を残して、握りやすく周縁を加工した石器で、旧石器時代に長く用いられていた石器です。スクレーパーは周縁を加工した石器で、皮を剥いだり、肉などを切るために使われたといわれています。ハンマーは、石器製作時に叩いて使う道具で、叩打痕が残されています。区内の旧石器時代の遺跡では、こうした石器を接合することによって石器の製作工程がわかる場合がありますが、本遺跡では接合関係はみられませんでしたので、石器を廃棄した場所である可能性が考えられます。石器の石材は、近くでとれるチャートの他に、長野県産の黒曜石や神奈川県の緑色凝灰岩などが含まれており、地域間の交流があったことがわかります。

ナイフ形石器出土状態　2号ブロックⅢ層

高松二丁目遺跡は、今回がはじめての本格的な発掘調査となりました。従来、約九千年前の縄文時代早期の遺跡として知られていましたが、数点の縄文土器は出土したものの、目立った遺構は確認されませんでした。この調査によって、石神井川流域の旧石器時代における良好な資料を得ることができました。

なお、発掘調査報告書は区内図書館で閲覧できます。

『東京都練馬区高松二丁目遺跡　特別養護老人ホーム（仮称）第2練馬高松園建設工事に伴う発掘調査』2006　社会福祉法人東京福祉会　共和開発株式会社



作業風景

練馬区郷土資料室特別展（練馬区独立60周年記念事業）

ちょっと昔の道具たち　―暮らしの道具に見る練馬区60年のあゆみ―

今年は、練馬区が誕生してから60年目の記念すべき年にあたります。この60年の間に、人口は、11万人から70万人に増加しました。そして農地の多くは住宅地となり、区内の景観は大きく変化しました。

この間に、人々の暮らしも大きく変わりました。練馬区誕生当初の昭和20年代は、生活様式は戦前とそれほど変わらず、使用された道具の変化もゆるやかなものでした。しかし、昭和30年代には、テレビ・冷蔵庫・洗濯機など電化製品の登場により、人々の日常生活は大きく変わりました。

郷土資料室では、それぞれの時期に使用された生活用具や当時の写真などを展示し、暮らしの道具の移り変わりをたどり、練馬区60年のあゆみを振り返ります。是非、お越しください。

○会場　郷土資料室
（石神井台1－16－31、電話3996－0563）

○日時　3月10日（土）～5月13日（日）
※月曜日、第4金曜日は休室
（ただし4月30日は開室、5月1日は休室）。

○学芸員による展示解説
①3月11日（日）　②5月6日（日）
※①②ともに午後1時30分から約30分、直接会場においでください。

主な展示資料

◇ハエ捕りビン◇

現在は、便所が水洗になるなど生活環境も改善され、居間や台所にハエが群がるという状況はなくなりました。しかし、衛生状態が良くなる前は、様々な工夫をして、ハエから食料を守らなければなりませんでした。このハエ捕りビンはそのための道具です。

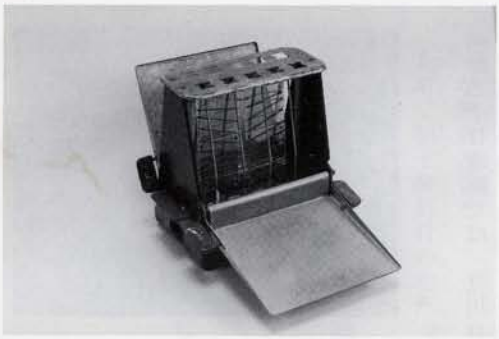
ビンの中に米のとぎ汁や砂糖水を入れ、ハエをおびきよせました。下から侵入したハエは行き場を失いビンの中の液に落下して、溺れ死にました。

ハエ捕りビン

◇トースター◇

この60年の間に食生活も大きく変化しました。昭和30年代半ばから、朝食は、米食からパン食が多くなっていきました。この時期にインスタントコーヒーや紅茶のティーパックが登場し、これを飲むためのカップなども各家庭で備え置かれるようになりました。

パンを焼くための電化製品であるトースターもこの時期に普及しました。写真のトースターは、側面のふたが両側に開き、パンの片面ずつ焼き上げるものです。片面が焼き上がると、いちいちひっくり返し、別の面を焼きました。



トースター

◇団地の生活用具◇

戦災と都市への人口流入による住宅難の解消のため昭和30年（一九五五）に日本住宅公団が設立され、翌年には勤労者向けの住宅の供給を始めます。練馬区内でも、昭和34年に錦団地、翌35年に石神井団地が造成されました。

団地居住者は一般家庭にくらべて、電化製品などの購入時期が早く、洋風の生活をいち早く取り入れました。公団の団地自体も、台所と食事室が一緒になったダイニングキッチンを備え、新しい生活スタイルを体現する設計がなされていました。ステンレス製の流し台の登場は、台所を飛躍的に快適なものにしました。

ステンレス製の流し台
集合住宅歴史館（都市再生機構住宅技術研究所）

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています